

# 受け継いでいこう

宮城県立古川黎明中学校 1年 木村 未来

私の祖父母の家は、お米と小ネギを作っている農家だ。わが家は、父の実家から「ひとめぼれ」というお米をもらって食べているので、お米を買って食べたことがない。

毎年4月になると、家族全員で種まきの手伝いに行く。祖父母と伯父と、私の家族4人と親戚が来て、みんなで種まきをする。作業しながら、それぞれの近況を話し合ったり、世間話をしたりして、ワイワイと楽しく進めていく。休憩時間には、祖母が私たちの好きそうなおやつを用意してくれ、一息つく。

私は、去年から、種をまいた苗箱をハウスに並べていく作業を手伝うようになった。それまでは、機械で種をまき、土を入れる際に箱のふちについた種や土を、小さなブラシで取り除く作業だけを手伝っていた。とても楽な作業だった。しかし、大きくなって苗箱を持てるようになったので、並べる作業をやってみたいと志願してやらせてもらっている。苗箱は、土を入れ、種をまき、水を含んでいるので、一つ一つが結構重い。その苗箱は、600箱以上になる。私と父と母と分担して並べるのだが、私はだいたい200箱以上並べている。重い苗箱を持って、前屈みになり、しゃがんで置いたら、次の箱を並べる。これを200回以上繰り返す。これは、足腰にかなりくる。おまけに、綺麗に並べていかないと、どんどん苗箱の列がずれていってしまう。そんなことも気にしつつ並べるので、結構疲れる。並べているときは、伯父がハウスの中まで、3箱ずつ運んできてくれる。作業が進むにつれ、私の疲労感も増すと、その箱を見る度に、「まだあるのか………」とぐったりする。しかし、全部を並べ終わると、やりきった充実感と、祖父母にとっても感謝されて、ちょっと

嬉しい気持ちになる。私も一人前の仕事ができるようになったな、大人の仲間入りができたような気になるのだ。

こうして育った苗は、祖父母と伯父が田植えをし、祖父と伯父が田の草取りをしたりして、大きく育っていく。今は、青々と田んぼで生長している。あと2ヶ月ぐらいで稲刈りになる。今は、祖父が大きなコンバインで、稲刈りをしてくれる。次は伯父か父が受け継いでいくのだろう。その後は、私か弟が受け継ぐのかもしれない。

こうして、わが家で食べているお米がいき上がる。自分も手伝って収穫したお米だと思うと、米一粒一粒が大事に思える。新米ができる秋には、ひときわご飯がふっくらつやつやに炊き上がって、とってもおいしい。そんなおいしいご飯には、おかずが何でも合ってしまう。毎日、毎食食べても飽きることが全くない。朝には、生卵をかけて食べたり、納豆をかけて食べたりする。夜には、焼き肉やお刺し身、丼物だっただけのご飯が進む。もちろん、和食以外でも合うから、ご飯は凄いい。カレーライスも、いつも以上にご飯を食べてしまおうし、わが家はクリームシチューの時だっただけのご飯を食べる。パンでは飽きるし、麺も毎食は食べられない。私はこんなに凄いい食べ物はないと思う。しかし、悲しいことに現在は、ハンバーガーやラーメン、パスタ等の外食、またインスタント麺等の普及によって、米の消費量が減少し続けている。その上、米の価格が下がっているため、農家は大変困っている。祖父も昔に比べて米の作る量を減らしたり、米を作らない田んぼを手離したりするそうだ。今は、米を売っても収入にならないので、家族や親戚が食べる分だけを作っている。こんなに万能でおいしいお米なのだから、もっと沢山の人が食べてもらいたいと思う。おいしいご飯とおかずと味噌汁を、「おいしいね」と食べていると、みんなが自然と笑顔になれる、そんな家族が、日本中に増えたらいいのに、と私は思う。この田園風景と、おいしいお米を、これからも後世に残していきたいと思っている。